1節　4K・8Kスーパーハイビジョン

NHKは，「NHK経営計画2015-2017年度」に沿って，2020年に世界最高水準の放送・サービスを実現するために，４K・８Kスーパーハイビジョンの制作・活用を推進した。４Kは，現在放送しているハイビジョンの４倍の画素数にあたる800万画素（画素数：横3,840ドット×縦2,160ドット）で，８Kは，４Kのさらに４倍，ハイビジョンの16倍の画素数にあたる3,300万画素（画素数：横7,680ドット×縦4,320ドット）の超高精細映像である。８Kは，1995年からNHK放送技術研究所が研究を始めたもので，８Kの超高精細映像と，22.2マルチチャンネルの立体音響で表現される，あたかもその場にいるような圧倒的な臨場感が特徴で「究極のテレビ」とも言われている。

１．4K・8K試験放送

（１）4K・8K試験放送「NHKスーパーハイビジョン」

NHKは，16年８月１日午前10時から，BS17chで４K・８K試験放送「NHKスーパーハイビジョン」を開始した。17年度の放送時間は，午前10時から午後６時を基本としている。８K放送を中心に行い，４K放送については月の最終週の午後５時台に，ひと月７時間程度のマルチ放送を原則としている。

16年12月１日から，一般社団法人「放送サービス高度化推進協会（A-PAB：呼称エーパブ）」が，BS17chでNHKと時分割で４K・８K試験放送を開始した。このため「NHKスーパーハイビジョン」の放送時間は，午前10時から午後６時のうち，A-PABが放送する１時間を除いた７時間としている（表１，２）。「NHKスーパーハイビジョン」では，スポーツやコンサート，舞台などの中継，自然・紀行や美術など，４K・８K超高精細映像の特長を生かしたさまざまなジャンルの番組を放送している。

「NHKスーパーハイビジョン」は，全国のNHKの放送会館に設置した受信装置で，多くの人に視聴されている。

なお，４K・８K試験放送は18年７月23日で終了する予定。

表１　NHKスーパーハイビジョンの放送時間

時期	基本的な放送時間※
2017/4/3～	10～18時のうちA-PABの放送時間（１時間）を除いた７時間

※五輪・大相撲期間中などは放送時間を拡大

表２　NHKとA-PABの放送時間帯（2017/4/3～）

曜日	NHKとA-PABの放送時間帯※
月曜日	NHK　11～18時 A-PAB　10～11時
火曜日	NHK　10～11時，12～18時 A-PAB　11～12時
水曜日	NHK　10～12時，13～18時 A-PAB　12～13時
木曜日	NHK　10～13時，14～18時 A-PAB　13～14時
金曜日	NHK　10～14時，15～18時 A-PAB　14～15時
土曜日	NHK　10～15時，16～18時 A-PAB　15～16時
日曜日	NHK　10～16時，17～18時 A-PAB　16～17時

※番組内容に応じて変更

（２）コンテンツ制作の取り組み

４Kコンテンツは，２Kとの一体制作を基本に，特集番組と定時番組の４K化を推進し，４K制作のノウハウを蓄積することに努めた。定時番組の具体例としては，『さわやか自然百景』『にっぽん百名山』『新日本風土記』『ニッポン印象派』等の自然・紀行番組のほか，『日曜美術館』『美の壺』等の美術番組，『コズミック　フロント☆NEXT』等の科学番組，『スポーツイノベーション』『世界はTokyoをめざす』等のスポーツ番組などである。また『月刊スーパーハイビジョンニュース』を毎月末の放送に向けて制作した。

『NHKスペシャル』関連の一体制作としては，「巨大水中洞窟を潜る　絶景　オルダ“水の宇宙”」「祇園　女たちの物語～お茶屋・８代目女将（おかみ）～」「列島誕生　ジオ・ジャパン（第１，２集）」「戦後ゼロ年　東京ブラックホール1945-1946」「シリーズ大江戸（第１～３集）」など。ドラマでは，『大河ファンタジー』「精霊の守り人」の最終章，『土曜ドラマ』「４号警備」，『土曜時代ドラマ』「悦ちゃん～昭和駄目パパ恋物語～」，『ドラマ10』「ブランケット・キャッツ」，『プレミアムドラマ』「男の操」などのほか，佐賀発地域ドラマ『ガタの国から』を制作した。「精霊

の守り人」のシーズン２はHDRでの制作も行った。

これ以外に，11月の『バレーボールV・プレミアリーグ』，12月の『第69回日本ハンドボール選手権』で，４Kと２Kの同時生中継も実施した。

８Kコンテンツは，超高精細映像と立体音響の魅力を最大限に生かし，まるでその場にいるかのような“臨場感”や，本物を見ているかのような“没入感”に満ちた番組を制作した。ピョンチャンオリンピックでは，２台の８K中継車を現地に派遣し，開会式やフィギュアスケート，ジャンプなど注目競技のもようを伝えた。特にフィギュアスケートについては，すべての種目を８K･HDR，22.2マルチチャンネルの立体音響で生中継した。

このほか『FIFAコンフェデレーションズカップ』や『大相撲夏場所』『2017NHK杯フィギュア』など関心の高いスポーツコンテンツ，ニューヨークで収録した『Jazz from New York』をはじめ『サカナクションライブ2017』『第68回NHK紅白歌合戦』等の音楽コンテンツ，『皇室“奇跡の秘宝”日本美の最高峰をもとめて』『若冲を発掘したアメリカ人“世界一コレクター”への軌跡』等の美術・文化コンテンツ，『“原爆の絵”は語る～ヒロシマ　被爆直後の３日間～』『メガシティ大発光　空から見た東京夜景』等の教養コンテンツ，『小さな旅』「山の歌・夏『命躍る峰々～蔵王山～』」等の紀行コンテンツなどがある。いずれも２Kとの一体制作が基本の４Kとは差別化を図って制作した。

（３）４K･８K試験放送のケーブル再放送

NHKは，ケーブル事業者による同時再放送によって，４K･８K放送の視聴機会の拡大を図り，４K･８K放送の理解促進と，実用放送への円滑な移行を推進するため，試験放送に限定した条件で再放送に同意している。17年３月から，ケーブル事業者によるNHKの４K･８K試験放送の再放送が順次開始された。なお，18年７月23日の放送終了をもって，ケーブル再放送も終了する予定。

２．新４K８K衛星放送の開始に向けた取り組み

（１）新４K８K衛星放送の放送事業者

総務省は，15年７月に公表された「４K･８Kロードマップに関するフォローアップ会合」の第二次中間報告のロードマップ（表３）を踏まえ，18年にBSおよび110度CSで開始される４K･８K実用放送のための制度整備として基幹放送普及計画を一部変更し，16年４月から実施した。変更された基幹放送普及計画は，BSおよび110度CSによる４K･８K実用放送の基本的な指針を新たに規定するもので，衛星の４K･８K放送の基本的な伝送路を「左旋」とすることや，NHKはBS右旋の４K放送，及びBS左旋の８K放送をそれぞれの特性を生かして行い，４K･８K放送の普及に資することなどが盛り込まれている。

総務省は，16年９月15日から10月17日までの期間に，４K･８K実用放送の衛星基幹放送事業者の認定申請の受け付けを行った。NHKは，BS右旋での４K放送と，BS左旋での８K放送の認定申請を行い，17年１月11日の電波監理審議会の諮問・答申を経て，１月24日に実用放送を実施する基幹放送事業者として認定された。

18年12月から開始される４K･８K実用放送のサービス名称については，17年12月１日に（一社）放送サービス高度化推進協会（A-PAB）が開催した放送開始１年前セレモニーにおいて，「新４K８K衛星放送」に決まったことが発表された。新４K８K衛星放送では，NHKおよび認定を受けた10社が放送する（表４）。

表３　４K･８Kロードマップに関するフォローアップ会合　第二次中間報告　ロードマップ概要

2016年 （リオデジャネイロオリンピック･パラリンピックの開催年）
・衛星セーフティネット終了後の空き周波数帯域（BS）において４K試験放送（最大３チャンネル）及び８K試験放送（１チャンネル）をNHK及びNHK以外の基幹放送事業者の２者で開始（４Kと８Kを時分割で放送）
2018年
・BS右旋及び110度CS左旋において４K実用放送開始 ・BS左旋において４K及び８Kの実用放送開始
2020年頃
・BS左旋において４K及び８K実用放送拡充（トランスポンダの追加割当） ・110度CS左旋において４K実用放送拡充（トランスポンダの追加割当）
2020年（2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催年） ≪2020年の目指す姿≫ ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の数多くの中継が４K･８Kで放送されている。また，全国各地におけるパブリックビューイングにより，2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の感動が会場のみでなく全国で共有されている。 ・４K･８K放送が普及し，多くの視聴者が市販のテレビで４K･８K番組を楽しんでいる。
2025年頃のイメージ
・４K及び８K実用放送のための伝送路として位置付けられたBS左旋及び110度CS左旋において多様な実用放送実現 ・右旋の受信環境と同程度に左旋の受信環境の整備が進捗

表４　新４K８K衛星放送の放送事業者

衛星・周波数	放送事業者	放送開始予定日
BS（右旋）　7ch	（株）ビーエス朝日	2018/12/1
BS（右旋）　7ch	（株）BSジャパン	2018/12/1
BS（右旋）　7ch	（株）BS日本	2019/12/1
BS（右旋）17ch	日本放送協会	2018/12/1
BS（右旋）17ch	（株）BS-TBS	2018/12/1
BS（右旋）17ch	（株）ビーエスフジ	2018/12/1
BS（左旋）　8ch	SCサテライト放送(株)	2018/12/1
BS（左旋）　8ch	（株）QVCサテライト	2018/12/1
BS（左旋）　8ch	（株）東北新社メディアサービス	2018/12/1
BS（左旋）12ch	（株）WOWOW	2020/12/1
BS（左旋）14ch	日本放送協会　※８K	2018/12/1
110度CS（左旋）9, 11, 19, 21, 23ch	（株）スカパー・エンターテイメント	2018/12/1

≪右旋と左旋≫

衛星放送では，隣接するチャンネルの電波の干渉を避けるため，偶数チャンネルと奇数チャンネルで電波の進み方を変えている。現在の衛星放送で使用されているのは奇数チャンネルのみで「右旋」の電波である。「左旋」はこれまで使われていなかった偶数チャンネルで，今後は，右旋・左旋共用のBSアンテナが必要となる。

㈱衛星放送システム（B-SAT）は，17年９月に，右旋と左旋の放送に対応した新たな放送衛星（BSAT-4a）の打ち上げに成功した。

（２）4K・8K放送推進連絡協議会

総務省は，４K･８K放送の普及・推進に向けた周知・広報等の実施に当たって，関係団体・事業者および総務省が相互に連携・協力して進めるため，17年４月から，「４K･８K放送推進連絡協議会」を設置した。協議会では，「４K･８K放送に関する周知・広報計画（アクションプラン）」をとりまとめ，本放送の開始に向けて，関係者が連携を図りつつ，周知・広報に積極的に取り組むことが確認された。計画に沿って，ピョンチャンオリンピックやイベントなどの機会を活用して情報を発信するとともに，受信環境整備のためのセミナーなどを開催した。

（３）NHKの新４K８K衛星放送に向けた取り組み

NHKは，18年12月の４K･８K放送で新たにスタートするチャンネルの呼称を「NHK BS４K」と「NHK BS８K」に決定し，２月に発表した。併せて，「NHK　BS４K」は，１日18時間（午前６時～午前０時）の放送で，スーパーハイビジョンの魅力にふれる，いわば「入り口」となるチャンネルとして幅広いジャンルの番組を編成，「NHK　BS８K」は，１日12時間10分（午前10時～午後10時10分）の放送で，超高精細映像と立体音響の魅力を最大限に生かし，まるでコンサートホールにいるかのような“臨場感”や，美術館で本物を見ているかのような“没入感”に満ちた番組を編成していく方針を発表した。

（４）NHKの周知・広報の取り組み

18年12月の４K･８K放送開始に向けた周知・広報の取り組みとして，引き続き，８Kのパブリックビューイングと試験放送の受信公開を行っている。17年度は，２月９日に開幕した冬のピョンチャンオリンピックをはじめ，NHK杯フィギュア，大相撲，紅白歌合戦において，大画面による８Kパブリックビューイングと，全国のNHKの放送会館などに配備した８Kモニターによる試験放送の受信公開を実施した。

ピョンチャンオリンピックの８Kパブリックビューイングは，東京・大阪・札幌の５会場で行い，合わせて11万3,000人を超える来場者に，８Kスーパーハイビジョンの魅力と18年12月からの４K・８K放送開始をPRした（表５）。また，ピョンチャンオリンピックの期間中，駅や商業施設など多くの人が集まる場所での受信公開も全国10か所以上で行い，多くの人に８Kおよび４Kで各競技を視聴してもらうことができた。

表５　ピョンチャン五輪の８Kパブリックビューイング

NHKふれあいホール	18日間	4,257人
東京ミッドタウン	17日間	82,932人
パナソニックセンター東京	17日間	13,810人
グランフロント大阪ナレッジシアター	17日間	9,699人
NHK札幌放送局	17日間	2,641人

４K･８K放送開始の１年前にあたる17年12月には，東京・西新宿のパークタワーホールで大規模なPRイベント「放送開始まであと１年！４K･８Kスーパーハイビジョンパーク」を開催。ロックバンド・サカナクションの８Kライブなどを上映した「８Kスーパーハイビジョンシアター」，８K有機ELを配した「８Kリビングシアター」，８K技術を生かしたアトラクション「８K：VRライド」など，多彩な展示を行った。

なお，試験放送では同会場からの８K生放送を実施した。また，同会場で収録したプロモーション番組を総合テレビで放送し，アピールした。

また，「NAB」「IBC」「MIPCOM」など，国内外で開催される展示会でも，さまざまな８Kコン

テンツを上映し，世界に先駆けて18年12月から８K放送を開始することをアピールした。

３．放送サービス高度化推進協会（A-PAB）の取り組み

放送事業者や受信機器メーカー等によって構成される，一般社団法人「放送サービス高度化推進協会（A-PAB）」は，４K･８K放送の推進に向けた取り組みを行っている。

（１）BSでの４K･８K試験放送

A-PABは，16年12月１日から，BS17chでNHKと時分割で４K･８K試験放送を開始した。A-PABの４K･８K試験放送では，A-PABに組織されたBS試験放送特別委員会の構成社であるNHK，日本テレビ，テレビ朝日，TBSテレビ，テレビ東京，フジテレビ，WOWOW，東北新社の８社が制作した４K･８K番組を放送している。放送時間は，月曜から日曜までの午前10時から午後６時を原則とし，このうちNHKが放送する７時間を除いた１時間としている（表２）。

（２）左旋衛星での４K試験放送

A-PABは，４K･８K放送の基本的な伝送路として位置づけられている左旋電波の受信機器の開発，試験・検証に資することを目的として，17年４月１日から，日本で初となる左旋衛星による４K試験放送を開始した。この左旋衛星による４K試験放送では，17年当初時点で使用可能な唯一の左旋衛星であった110度CS（JCSAT-110A）を用いている。

（３）４K･８K放送のテストセンター業務

A-PABでは４K･８K放送の推進に向け，４K･８K放送の受信機の開発サポート，BS右旋の帯域再編や左旋電波の使用に伴う既存受信機への影響調査や，動作検証を実施するため，「テストセンター推進委員会」を16年７月に設置し，テストセンターの準備を進めている。

放送事業者，受信機メーカー，関係する業界団体が連携して，４K･８K放送の受信機開発に資するテストストリームを作成した。

（４）BS右旋の帯域再編業務

現在のBS放送を行っている「BS右旋」でNHKと民放５社が４K放送を実施するため，各社が現行BS放送の帯域を放送サービスに影響のない範囲で供出し，４K放送を実施するための帯域を作り出す「帯域再編（幅寄せ，トラポン移動）」を実施する。これに向け，17年２月からA-PABに関係事業者からなる「BS右旋帯域再編作業部会」が設置され，実施計画の策定を行った。

18年１月には，帯域削減作業（フェーズ１）を混乱なく完了した。18年４月から５月末までの期間，関係事業者による放送周波数の移動を行う作業，帯域再編（フェーズ２）を実施した。

（５）４K･８Kの周知広報業務

A-PABは，周知広報委員会の下で，４K･８K放送に関する情報発信を行った。一般の消費者の実態調査，ホームページやチラシによる４K･８K放送に関する正確な情報の提供や，市販されている４K対応テレビに関する注意喚起，左旋の普及に向けたマンション管理業協会等への説明会などを実施した。

17年12月１日には「新４K８K衛星放送開始１年前セレモニー」を開催し，女優の深田恭子さんを４K８K推進キャラクターに決定し，放送のサービス名称やロゴを公表した。

２節　インターネット同時配信

１．NHKのインターネット同時配信

インターネット同時配信は，放送番組そのものを，インターネットを通じて放送と同時に提供することである。NHKがインターネットを通じてコンテンツを提供する業務は，NHKの番組そのものや番組の理解増進に役立つ情報を，インターネット等の電気通信回線を通じて一般に提供する業務として定められている（放送法第20条第２項第２号，第３号）。

NHKでは，インターネットによるコンテンツ提供について，その業務の内容を具体的に定めた「インターネット実施基準（放送法第20条第２項第２号および第３号の実施基準）」（以下「実施基準」）を定め，15年２月に総務大臣の認可を受けた。また17年には，７月と９月にそれぞれ実施基準の一部の変更について認可を受けている。この実施基準に則（のっと）り，各事業年度の開始前に実施計画を策定・公表し，実施基準および実施計画に基づいて業務を実施することとなっており，「平成29年度インターネットサービス実施計画」を17年２月に公表した。インターネット同時配信についても，実施基準に定められている範囲で実施している。

実施基準では，インターネット同時配信のうち，視聴者に直接コンテンツを提供する２号受信料財源業務にあたるものとして，放送中番組の提供および試験的提供が定められている。

２．放送中番組の提供

実施基準で定められた２号受信料財源業務における放送中番組の提供は，次の４類型となっている。

・ラジオ第１放送，第２放送およびFM放送の放送番組の提供（らじる★らじる）
・国際放送および協会国際衛星放送の放送番組の提供（NHKワールドTV，ラジオ日本）
・災害時における国民の生命・財産の保護等に資するための情報その他の国民生活や社会全体に大きな影響を及ぼす情報であって特に迅速に提供すべきものを伝える国内テレビジョン放送の放送番組の提供（災害時等における放送同時提供）
・放送開始後の視聴の利便を図るため，ハイブリッドキャスト対応受信機または当該受信機にひも付く端末機器を対象に，国内テレビジョン放送の放送番組の放送時間中において，時差再生可能な形で行う当該放送番組の提供（ハイブリッドキャストによる時差再生）

（１）らじる★らじる

NHKネットラジオ「らじる★らじる」は，ラジオ第１放送，ラジオ第２放送，FM放送の番組を，インターネットを通して放送と同時に提供するサービスであり，ホームページとモバイル端末向けのアプリで提供している。山間部など電波の入りにくい地域，夜間の外国電波混信，全国的に普及しているマンションなどの鉄筋コンクリート住宅等，ラジオ放送が聴取しにくい状況の改善を目的として提供している。インターネット環境が整っていれば，ノイズの少ない音声でラジオ放送番組を聴取できる。

17年度は，16年度に引き続いて関東広域，近畿広域，中京広域，広島県域，福岡県域，宮城県域，北海道域，愛媛県域に向けたラジオ第１放送，ラジオ第２放送（全国放送），および東京都域，大阪府域，愛知県域，広島県域，福岡県域，宮城県域，北海道域，愛媛県域に向けたFM放送の放送中番組を提供した。

（２）国際放送に関わるインターネット同時配信

NHKワールドTV（英語）とラジオ日本の放送番組のインターネット配信は，国際放送サービスの柱の一つとして実施している。ラジオ国際放送「ラジオ日本」は，00年にインターネットを通したニュースの放送同時および放送後配信を開始した。その後ニュースに加えて番組音声も放送同時および放送後配信を開始し現在まで継続している。

17年度はラジオ日本の18言語のホームページとモバイル端末向けのアプリで放送同時提供を行った。

NHKワールドTVは，09年２月，24時間英語チャンネルとして大幅改定を行ったのを機に，インターネットでの同時提供を開始した。17年度は，実施基準に定められた業務として実施し，権利上インターネットで提供できない映像を使用したごく一部の番組を除き，ほぼ全てのニュース・番組を，ホームページ，モバイル端末向けおよびテレビに接続してインターネット動画を視聴する機器向けのアプリで放送と同時に提供した。

（３）災害時等における放送同時提供

ニュース・災害情報発信の強化の一環として，17年度は36件のニュース等を提供した。提供は，実施の都度，NHKオンライン内に配信動画の視聴ができる特設ページを臨時に設けて行うとともに，アプリ「NHKニュース・防災」でも提供した。NHKオンラインのトップページからは専用バナーで特設ページへの誘導を行った。

提供した放送番組は，ニュース「シリア　アサド政権の施設へ米軍がミサイル攻撃」関連（4.7），ニュース　シブ５時「日米経済対話　共同会見」関連ニュース（4.18），ニュースチェック11「日ロ首脳会談　共同記者発表」関連（4.27～28），ニュース「韓国　ムン新大統領記者会見」（5.10），ニュース・気象情報「眞子さま婚約へ小室圭さん会見」関連（5.17），ニュース「イギリス総選挙　保守党　過半数割れ確実」関連（6.9），ニュース「通常国会閉会　安倍首相　会見」関連（6.19），ニュース「長野県で震度５強」関連（6.25），「東京都議会議員選挙　開票速報」（7.2～3），ニュース等「台風３号・前線影響大雨などに警戒・北朝鮮ミサイル発射」関連（7.4），ニュース等「島根県に大雨特別警報」関連（7.5），ニュース等「福岡県・大分県に大雨特別警報」関連（7.5～7），ニュース「閉会中審査『加計学園』問題質疑」（7.10），ニュース「鹿児島県で震度５強・九州北部　記録的豪雨」関連（7.11），国会中継「衆議院予算委員会質疑」（7.24），国会中継「参議院予算委員会質疑」（7.25），ニュース「第３次安倍内閣・第３次内閣改造」（8.3），ニュース・気象情報「台風５号」関連（8.7），ニュース「北朝鮮ミサイル」関連（8.29），ニュース「民進党代表選」関連（9.1），ニュース「北朝鮮　６回目の核実験」関連（9.3），ニュース「眞子さま婚約内定会見」関連

（9.3），ニュース「秋田県で震度５強」関連（9.8），ニュース「北朝鮮ミサイル」関連（9.15），ニュース「台風18号」関連（9.17～18），ニュース「安倍首相記者会見」関連（9.25），「希望の党小池代表会見」関連ニュース（9.27），ニュース「衆議院解散」関連（9.28），「党首討論会」（10.8），「衆議院議員選挙開票速報・台風21号」関連ニュース（10.22～23），ニュース「首相指名選挙」関連（11.1），ニュース「日米首脳　共同記者会見」関連（11.6），ニュース「皇室会議」関連（12.1），ニュース「関東で大雪」「草津白根山　噴火か」関連（1.23），ニュース　シブ５時「安倍首相・ペンス米副大統領　共同記者発表」関連（2.7），「佐川前国税庁長官 証人喚問」関連（3.27）であった。また，実施基準に基づき，実施の都度，NHKのホームページで公表した。

（４）ハイブリッドキャストによる時差再生

ハイブリッドキャスト受信機に向けた時差再生サービスは，放送中の番組をサーバーから通信経由で提供することで，放送の冒頭や注目のシーンを見逃しても，最初からもしくは見逃したシーンを探して視聴できる「早戻し機能」を使ったものである。

この機能を使ったサービスは13年度から16年度にかけてソチオリンピック，リオデジャネイロオリンピック等で実施した。17年度は実施しなかった。

３．試験的な提供

試験的な提供は，実施基準で２号受信料業務として位置づけ，国内テレビ放送の放送番組を放送と同時に提供するサービスの改善・向上の検討に資することを目的として行うものと定めている。主な検証項目には「権利処理上の課題」「配信システムへの負荷」「視聴ニーズ」などがある。試験的な提供にはA，B，Cの３つがある。「試験的提供A」には①スポーツイベントの生放送番組を提供するものと，②オリンピック・パラリンピックピョンチャン大会を対象に行うものがあり，17年度はA②をピョンチャンオリンピックにおいて実施した。「試験的提供B」は参加者を事前に定め，期間を限定して提供するもので，17年度は10月から11月にかけて実施した。また，実施基準を変更して新たに加えた「試験的提供C」については，ピョンチャンオリンピックにおいて実施した。

（１）試験的提供A

試験的提供Aは，実施基準の変更を行って，オリンピック・パラリンピックピョンチャン大会に際しては一日あたり16時間以内で提供を行うこととした。17年度は，「ピョンチャンオリンピック」について，18年２月９日から25日まで，総合テレビまたはEテレで放送した関連番組を放送と同時に毎日提供した。

総配信時間は235時間47分であり，このうち「ピョンチャンオリンピック」以外の内容を放送した時間や，契約の関係で配信できなかった時間等，約40時間４分の間は同時配信を行わなかった。参加者については，誰でも参加できることとし，アンケート調査などを実施して，大規模アクセス時の利用のされ方の検証や，ユーザー認証機能を使用しない場合の配信負荷の把握などを行った。

同時配信の視聴者数は144.1万であり，視聴者数が多かった競技中継は，「フィギュアスケート男子シングル・フリー」（2.17）が60.5万，「フィギュアスケート女子シングル・ショートプログラム」（2.21）が23.9万，「カーリング女子準決勝」（2.23）が21.4万だった。利用者へのアンケート調査では，同時配信を利用した理由について「パソコンで他の作業をしながら視聴できたから」「テレビと手元で同時に，複数の番組を見たかったから」「近くにテレビがなかったから」という回答が多かった。一方，不満・不便な点としては「画面が小さかった」と「特に感じたことはない」がともに30％弱で多かった。

（２）試験的提供B

試験的提供Bとして，10月30日（月）から11月26日（日）の４週間にわたり，東京・神奈川・埼玉・千葉で放送している総合テレビおよびEテレの内容を，毎日朝５時から翌日午前１時までの20時間以内で放送と同時に提供した。また，同時配信後１週間の「見逃し配信」と，同時配信中の番組を最初に戻って視聴できる「早戻し配信」も実施した。地域向け調査として，大阪放送局と静岡放送局の番組をそれぞれの地域に対して配信した。ただし，契約等の関係で配信できない番組やニュース項目は配信を行わなかった。配信した時間は，合計1,022時間48分（総合・470時間57分，Eテレ・446時間３分，大阪・63時間13分，静岡・42時間33分）だった。

配信した1,022時間48分は，総配信対象時間の84.5％にあたる。同時配信できたものの内訳は，ニュースが251時間53分（期間内の全ニュース時間帯の約92％），ニュース以外の番組が770時間54分（期間内のニュース以外の番組時間帯の約82％）だった。

参加者は，NHKの同時配信実験であることを明示して，調査会社を通じて募集した。総数は

8,007人で，その内訳は，「一般向け調査」として全国の16～69歳男女5,400人，「地域向け調査」として近畿地方の2,000人，静岡県の500人（いずれも20～69歳男女），「若者調査」として，関東の15～25歳男女107人である。「若者調査」では，利用を依頼し，感想などを聞いた。なお，17年度は，実際のサービスに近づけて周知を行った場合の利用状況を把握するため，実験期間前のログイン依頼や，期間中のメール・アプリでの番組案内の配信など，積極的な周知施策を行った。また，動画サービスとしての利便性向上を図ったため，アプリの仕様が16年度とは異なる。

人口構成比に合わせた性別・年齢層による参加者とした「一般向け調査」での利用状況を見ると，各日の利用率は20％前後で推移し，継続的な利用があった。また，期間中に一度でも利用した人の割合（累計利用率）は，サービス全体で59.5％，同時配信が59.0％，見逃し配信が53.9％，早戻し配信が20.1％であった。

普段のメディア利用が主にネット利用，ネットのみ利用という層でも利用率は全体とあまり変わらず，10代，20代でも４割弱～５割が利用した。利用者の満足度（「満足」「やや満足」の合計）は約９割だった。同時配信は，平日は朝，昼，夜に視聴の山が見られ，場所は自宅での利用率が高かった。配信実験を除いたテレビ番組の視聴時間が減少することはなかった。

アンケートでは，利用しなかった理由については「テレビで見られるから」が多く，どのようになれば利用したいかについては，「民放の番組が見られること」「データ通信料を気にせず利用できること」という答えが多かった。地域向けの配信については，利用者の満足度は約９割だった。社会的意義に関する設問では，同時配信を利用することで正確な情報を得たという人が６割だった。災害時・緊急時の同時配信の利用意向のある人は９割だった。

（３）試験的提供C

17年９月の実施基準の変更で，スーパーハイビジョン試験放送の放送番組を４K信号により伝送し，ハイブリッドキャスト対応受信機または当該受信機にひも付く端末機器を対象として試験的に提供することができるようになった。（試験的提供C）

17年度は，18年２月のピョンチャンオリンピックにおいて，試験的提供Cを実施した。

実施基準で定めたとおり，一日５時間以内の範囲で，スーパーハイビジョン試験放送の競技放送の一部を提供した。同時配信に加え，見逃し配信を実施した。見逃し配信の視聴可能期間は，３月５日までとした。提供番組と提供時間については，16番組，47時間17分の提供を行った。試験的提供Cと併せて，放送していない競技について４K画質のライブ配信も実施した。

今回の配信では，CDNを利用した，大量のアクセスに対応できる配信システムの検証を実施した。再生可能な回線が確保できていた割合は，時間帯や地域などの条件によって大きく変化する傾向がみられた。